山城を有て義兵を挙ぐ四人数を差向け討取べき由
評議の処又伊豆国より石田三成男の文有
併ら弾正郎邦知領と呼の外何辛謀を以て味方に
なし殺て唐崎の要害者をきたやと思ひ則吉村伊
豆守を呼れ所存の趣き仰合られ其へ伊豆守承て
名き在地の域独向く近郷の諸士を集て彼の治右
衛門を城中を取巻き書屋き神ふもてなして狀ふ
を元ちかふ一通の書を出し今度上杉攻一味の
諸侯濃州関ヶ原の合戦に出て敗軍し故ふ去江
山城守一昨日軍勢を集て会津へ引退し今強ふ
出陣何を主人の義を守り討死しの覚迎も上杉攻
利運を為ける思ふきにはのふぞこふ理をまけて速ふ家
上洛降参し忠義を尽されは知領の外ふ加恩を与
ふきよし委細申遣りを治右衛門家の子評
義しそいうて有ときまちまちなる所ふ下官仕進ふ出
伊豆守申越されし如く関西の諸侯関原にて敗
軍の上はなんそ此城ふ和ふて忠志あれとそさのこ
景勝公和言を信ふ上洛山城
守諸勢を引まとめ退陣有に成門ふ一左右も吾
く新敵に推参し奉遺恨まきに尽しかさし所